

北海道大学病院 神経内科 田中大貴

こんにちは。私は現在卒後 5 年目で、旭川赤十字病院で 2 年間の初期研修を終えた後、引き続き同院の神経内科で 2 年間スタッフとして勤務していました。2020 年 4 月からは、北大病院におります。

神経内科の後期研修では、大学病院やその関連施設で勤務しながら様々な神経疾患の診療を学んでいく形になります（なお 2018 年に新内科専門医制度がスタートしており、こちらでも並行して進めています）。旭川赤十字病院は北大病院の関連施設のひとつです。道北地方における災害、救急医療などの拠点としての役割を担っており、ドクターヘリを有するなど、救急のイメージが強いかもしれませんが、神経疾患の患者も非常に多いです。脳梗塞、髄膜炎などの急性期疾患から、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの変性疾患まで、様々な患者さんの診療を経験することができました。神経疾患は他臓器領域の合併症を有することも多く、また扱う症状も必ずしも神経が原因だとは限らず、意識障害の患者さんが実際には他領域の疾患であった、というようなこともしばしば経験しました。このような経験を通じて、内科全般の知識がつく、というところも大げさかもしれませんが、神経以外の内科的知識にも幅広く触れられるものと思います。

卒後 5 年目で初めて異動を経験し、現在は北大病院で研修をしています。急性期病院のスタッフとして多数の患者さんを診ていく旭川での研修に対し、大学病院ではひとりひとりの患者さんをよりじっくり診ていく形になります。これまであまり経験できなかった希少疾患の診療にも携わることができ、旭川とはまた違ったやりがいを感じながら研修をしています。扱う疾患が多少違っていても、丁寧な神経診察や検査を通して、どこにどのような病態が生じているのかを考察するという本質は変わらないと思います。診断や治療に難渋することも比較的多い分野ですが、考えた病態をもとに、患者さんに何ができるかを検討していくことは、きっと魅力的で得られるものも多いと思います。

ひとりでも多くの方が北大神経内科に興味を持っていただけましたら幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。

2020 年 11 月